

会 議 録

	令和6年度第1回子ども・子育て会議				
日	令和6年7月26日(金)	時間	13:30~15:00	場所	糸魚川市民図書館視聴覚室
件名	議事 (1) 令和5年度「子ども・子育て支援事業計画」の主要事業の進捗状況について (2) 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について (3) 園及び小学校の適正配置の検討について				
出席者	【委員出席者】 11人 山本(裕)会長、松本副会長 伊藤委員、山本(悠)委員、清水委員、山田委員、藤田委員、室川委員、井伊委員、神田委員、黒坂委員 【委員欠席者】 陸川委員、小野委員 【事務局】(教育委員会事務局) 6人 山本教育次長 室橋こども課長 田村課長補佐 飛弾野係長 能登主査 古川こども教育課長				
	傍聴者定員	一人		傍聴者数	0人

会議要旨

1	開 会	教育次長
2	交代委員あいさつ	
3	議 題	
	(1) 令和5年度「子ども・子育て支援事業計画」の主要事業の進捗状況について (委員) 達成状況の○と△の意味は何か。 (事務局) 5年度目標を達成しているものを○印としている。 (委員) 夜間保育について、ニーズあるか。 (事務局) 市内ニーズは少ないと想定しているが、あるという認識でいる。上越市ではすでに実施しているが利用頻度は低いと聞いており、今後の検討課題と考えている。 (委員) 事業番号126,127の結婚していない人への取組について、企業登録30件で分母となる市内企業数が不明であるし、就労環境をどのように良くしたいのか。また、独身者が多くいるという課題もある。 (事務局) 市内企業数の数字は持ち合わせていない。就労環境の改善に向けて横ぐし展開が必要であり、企業でも様々な事業を実施している。 (事務局) 126,127の達成状況を○としているが、就労環境の整備については、働きかけるということで達成しているものとしている。引き続き、市内企業へ働きかけしていきたい。 (委員) 団体でも企業でも、子育て環境の充実に向けて啓発していかないといけないと思う。 (委員) 屋内遊戯施設整備について、冬だけでなく、夏も熱中症などで、屋外で遊びづらくなっている。今の整備状況はどのようになっているか。 (事務局) 現在、令和10年4月の供用開始に向けて準備を進めている。全天候型の屋内遊戯場	

の整備をメインとしているが、子育て支援センター、一時預かり保育などの機能も持たせる。

(委員) 今、困っている人はどうか。小学生は利用対象となるか。

(事務局) 土日を含み、「もっとアソビバ」という屋内広場を既存施設で臨時的に開催する事業を実施している。能生児童館も年間通じて開館しているのでご利用いただきたい。整備する施設の対象年齢は小学生6年生までだが、お子さんの年齢ごとにゾーニングしながら利用いただければと考えている。また、子育てだけでなく、図書スペースなども整備予定である。

(委員) 能生児童館は、移動児童館をしているが、そのような場所を増やしていくということはどうか。

(事務局) 市内に新たな児童館整備の検討等もしたことはある。今回整備する屋内遊戯施設は、駅北大火からの復興の流れにより整備する良いタイミングであった。有利な財源を使用できることもあって整備につながったと考えている。

(委員) 「もっとアソビバ」や能生児童館の運営はすばらしいが、広い市域のなかで、近くに遊ぶ場があることが良いと考えており、今ある既存の建物を使いやすくする形も検討しても良いのではないかと思う。

(事務局) 例えば、糸魚川地区公民館では、会場の利用申込がないときは、子育て中の親子に使える部屋を提供している取組をしていると聞いている。

(委員) 児童図書整備について、学校との連携をお聞きしたい。

(事務局) 学校の図書室で、市民図書館の図書を借りることができる状況にはなっていない。

(委員) 学校と市民図書館の図書の融通により、図書の一括管理で楽になり、図書館のない遠方の地域の子どもも図書が借りやすくなるという状況ができることは良いのではないか。

(事務局) 課題が多くあると思うが、今後の検討としたい。

(事務局) 現在検討している図書館のあり方検討にもつながるが、社会状況により、電子書籍などが普及するとなると、図書の融通等がなくなると、どこでも借りられるという状況ができる可能性がある。

(委員) 今後の図書のことを考える委員会はあるのか。

(事務局) 今後の図書のあり方を考える委員会があり、現在、検討している。

(委員) 経済的負担の軽減について、学童保育が増えてきていて学童と園児の安全を優先すると、物理的・環境的に難しい状況が現場ではある。また、低所得の家庭の方はお金がかかるからと言って、子どもだけで留守番をさせている状況が見受けられる。子どもの頃のみinnで遊ぶ、勉強するなどの環境がとても大事であり、一人で自宅にいる状況を無くすためにも、低所得の家庭だけでも学童保育の使用料を免除できないか。

(事務局) 通常は、児童1人につき月6,000円の利用料を負担してもらっている。おやつを提供などの実費負担をお願いしている状況であり、実費負担分も免除していくことには様々な議論はあると思う。全国的には、減免制度を設けている市町村もあるが、当市では減免制度を設けていない。市の財政も潤沢でないが、子どものことを考えながら検討していきたい。

(2) 第3期子ども・子育て支援事業計画の策定について

(委員) アンケートデータをもとに施策を検討していくのか。

(事務局) 保育園の利用希望であったり、施策需要を把握したりする。

(委員) パーセントの表示と数値での表示があるが、それぞれが密接に関係してくると思う。割合では見えないが、数では需要そのものが減っているという状況もあり、施策にあたっては注

意が必要と思う。

(委員) 3 ページ、子育て環境の整備とあるが、横断的な対応と、より施策の具体的な目標を示していくことが必要と思う。

(事務局) 可能な範囲で具体的なものは示していきたい。

(委員) 行政だけでも駄目と思うし、市ももっと積極的な姿勢を示すべき。

(事務局) ご意見のとおり、行政だけでなく、多くの関連団体とともに施策を定めていくことが重要と考えている。

(3) 園及び小学校の適正配置の検討について

(委員) 令和 14 年の推計人口は、実感としてもっと減少している気がする。自分の子どもは低学年でも一緒に自宅に帰る友達もいない状態である。

(事務局) 推計値は平成 24 年から令和 4 年度までの減少率を単純に乘じたものであり、人口減少については加速度的に進むという特性から、推計値よりもさらに減少すると認識している。地域ごとの推計値の違いは、その地域状況と家庭構成などが複雑に影響しているものと考えている。

(委員) 保育園から 4 つの小学校へ入学する状況になっている。統合について、どのように地元から話を持っていくと話し合いができるのか。

(事務局) 地域の方、保護者とそれぞれに考えがあると思う。地元から統合を考えたいという意思表示があった段階で、行政から様々な方法の提案と話し合いを始めたいと思う。統合ありきから始めずに、検討したいという段階から話し合いたい。

(委員) 統廃合は人数だけの問題でない。小規模校、大規模校とそれぞれ良さがあると思うが、県外からわざわざ小規模校に来る親子もいる。行政でも複式だから統合とかという発想は無いようにしてもらいたい。

(事務局) 小さい学校でも残していく方法として、いじめを受けていた子や特性がある子どもなどの特例校とすることで、学区を越えて通学することなどもできる。幅広く検討している。

(委員) 今井小学校が統合されたとき、スムーズだったと感じている。寺島保育所にも通っていたが最後は 4 人になり、中央保育園に統合した際には友達ができるか心配したが、子どもの方が順応力高く、元気に通園できていた。

(その他)

・なし